

全経簿記検定試験 3級商業簿記 第214回類題

第3問 次のような仕訳を行うことになる取引の内容として最も適切なものの記号を選びなさい。(12点)

1.

借方科目	金額	貸方科目	金額
支払手数料	12,000	現金	12,000

- ア. 商品¥12,000を現金で購入した。
- イ. 手数料¥12,000を現金で受け取った。
- ウ. 手数料¥12,000を現金で支払った。
- エ. 従業員の源泉所得税¥12,000を現金で納付した。

2.

借方科目	金額	貸方科目	金額
買掛金	800	商品	800

- ア. 商品¥800を掛けで購入した。
- イ. 商品¥800を掛けで販売した。
- ウ. 掛けで販売した商品¥800が返品された。
- エ. 掛けで購入した商品¥800を返品した。

3.

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	40,000	売上	40,000
売上原価	30,000	商品	30,000

- ア. 商品¥40,000(原価¥30,000)を販売し、代金は掛けとした。
- イ. 商品¥40,000(原価¥30,000)を販売し、代金は得意先振出しの小切手で受け取った。
- ウ. 商品¥40,000(原価¥30,000)を販売し、代金は普通預金口座に振り込まれた。
- エ. 商品¥40,000(原価¥30,000)を販売し、代金は得意先振出しの小切手で受け取り、ただちに当座預金とした。

=====

解答欄

1	2	3

全経簿記検定試験 第214回類題【解答・解説】

3級商業簿記

【解答欄】

1	2	3
ウ	エ	イ

【解説】

本問は、仕訳結果から取引を推定するという新傾向の問題である。示された仕訳の勘定科目や金額をもとに、特定の取引内容を推定し、4つの取引から最も適切な取引を選択する能力が問われている。

4つの取引内容の違いを手掛かりに考えるとよい。また、4つの取引について、それぞれを仕訳してみることも確認時には有効である。

<考え方>

1. 借方科目が「支払手数料」勘定（費用）のため、手数料の支払取引であることがわかる。
2. 借方科目が「買掛金」勘定（負債）のため、買掛金の支払取引又は仕入返品取引と推定される。
貸方科目が「商品」勘定（資産）であることから、仕入返品取引であることがわかる。
3. 貸方科目が「売上」勘定（収益）のため、売上取引であることがわかる。
また、借方科目が「現金」であることから、売上代金を現金又は他店発行の小切手で受け取った取引であることがわかる。